

第2回 丹波市総合計画審議会 会議録

日時 平成31年3月19日(火)

場所 氷上保健センター 2階ホール

【出席者委員】

深田俊郎委員、古倉一郎委員、大木玲子委員、足立昌彦委員、杉本達也委員、大野亮祐委員、
足立はるみ委員、長井克己委員、塩谷泰久委員、秋山登久男委員、谷水ゆかり委員、
中川幾郎委員、小村香織委員、竹岡正行委員 (14名)

【欠席者委員】

丹生裕子委員

【事務局】

副市長、近藤紀子政策担当部長、清水徳幸総合政策課長、
荻野政策係長、荻野主査

【傍聴者】なし

【記者】なし

1. 司会 政策担当部長
2. 副市長あいさつ

皆様ご苦勞様です。

昨年11月に第1回目の審議会をさせて頂きました。丹波市総合計画の位置付けの確認と、策定方針をお示ししてきました。

それを踏まえての第2回目の審議会です。昨年12月に市民意識のアンケートを実施し、その結果がでてきておりますので、のちほどご説明させて頂きます。

市民アンケート調査の結果をどう後期基本計画に反映させていくかなど、ご意見をいただければと思います。

市民アンケート調査の結果をどう見るかというのは結構難しいと思います。

前回の調査と今回の調査は5年間の開きがありますが、5年間で施策ごとの満足度と不満足度がどう変わったのか、合わせてどのあたりで推移しているのかが重要だと思います。

要するにもともと満足度が高いところで変わっているのか変わっていないのか、或いは低いところで満足度が変わっているのか変わっていないのかというところが重要になってきます。

また、満足・不満足以外に、わからないと答えていらっしゃる方もおられます。わからないという割合も重要な指標です。子育て、高齢者の施策は身近なところなので、はっきり満足、不満足が出ています。

例えば、行財政運営、市民活動においてはわからないという回答が多く、このわからないという答えの割合をどう捉えていくか。日頃から十分にその施策の説明が出来ていなくて、わからないということなのかもしれません。

そういう意味では、単に満足・不満足という数値だけではなくて、わからないという答えの意味するところ、またどのあたりで変化が起こっているのか、というのも大事です。

それと、単に丹波市の5年前と今ということではなく、全国的な平均で丹波市がどうなっているのかも大切であると思います。

前回は説明させていただきましたが、この最上位計画が進んでいる最中に平行して2つの重要な審議会が進んでいます。

ひとつは、20年後の丹波市の都市構造をどうしていくかを検討しています。その議論では、市の都市機能の効率化を図っていく上で、できるだけ都市の中心部に集めていこうとしています。ただし、それは国が言っておりますコンパクトシティではなくて、都市機能は中心部に集めるけれども、人々の住むところは住み慣れたところで住み続けていただくよう検討しています。

国のコンパクトシティは、都市機能だけでなく人が住むところも中心部に移動してもらおうということなので、市はそこまで考えていません。国の言うコンパクトシティとは違う方向を考えようとしています。

そういったものをどこまで施策として考えていくか、という議論を行っており、それをこの計画にどう反映させていくかです。

それからもう1つは、住民自治のあり方をどうしていくかを議論しています。

これは丹波市の特徴でもあります、自治協議会・自治振興会の自治のあり方をどうして行くかを議論しています。これをこの計画にどう反映させていくか、このあたりが非常に大きな議論になるではと思います。

同時並行でこの2つの議論が進んでいますので、逐次ご報告をさせていただきながら、後期基本計画に反映させていただきたいと思いますので、この審議会としては、忌憚のないご意見をいただければと思います。

この後のご審議の程よろしくお願い申し上げます。

3 経過報告

4 報告事項

- ・職員研修会の要旨

5 協議事項

- (1) 第2次丹波市総合計画(後期基本計画)策定にかかる丹波市を取り巻く社会情勢の動向について

- ・丹波市未来都市創造審議会 通信

- (2) 第2次丹波市総合計画(後期基本計画)策定にかかる市民アンケート調査の結果

報告について

・市民アンケート調査による満足度比較表

「事務局」(1)(2) 続けて、説明

【質疑応答】

会 長： 【資料3】をご覧ください。概括しますと、平成30年と平成25年の差についてはほとんど満足度が増えています。

唯一の例外が観光、それと市民参画で、不満足度の増というのが気になります。

委 員： 数字だけ見ますと観光と生活排水も満足度がマイナスになっており、この2点が突出して大きいと思います。市民アンケートの回収率も前回より高く、数も多く、各年齢層もそれぞれの母集団があって、ある程度この意見が聞けるのではと思います。

そして、市民参画の不満足度の多さは確かに見ていて感じます。そのあたりの思いをもう少し細かく聞かせて頂ければありがたいです。

委 員： 前回の調査にはなかったというアンケート項目というのが何点かありましたが、前回まであって今回なくなった項目はあるのでしょうか？

あと、どの項目も10代の満足度が非常に高いです。これは何かの理由があるのか、そういう分析をされているのでしょうか？

事務局： 満足、不満足と比較表ですが、平成25年にはないものがあります。平成25年のアンケートは、第1次の施策に対し満足度のアンケートを行っています。

よって、例えば「景観」という項目は平成25年の調査にはありませんでした。これは第1次の施策にはなく、第2次から新たに追加した項目ですので、比較できる満足度の数字はありません。施策的には繋がっていますが、それぞれ社会情勢に応じた変化を行いました。

会 長： 10歳代についてはどうですか。

事務局： 10歳代につきましてはやはり同じ意見を私どもも持ちました。前回の審議会の中でも「アンケートの対象者について、どのくらいの割合ですか。きちんとバランスが取れていますか。」と、ご質問頂きました。

それぞれ性別、年齢別、地域別を分けまして、人口で割りまして、それぞれバランスよく配置しまして、すべて100%になるような形で無作為でアンケートを取っております。特に偏ってはいませんが、やはり10代の回答数が少ないので、率が高くなります。特に補正係数を掛けたりせず、そのままの数字を出しています。

委 員： アンケートというのは本当に100%思いを表せるかとは思いますが、これを元にこの後どう施策を考えていくことが大切だと思います。私の職場でもアンケートを取りますと、職員が感じることとアンケートの回答が違っていたりすることが

あります。これをひとつの参考にして、そのもとで進めて頂きたいと思います。

また、これを元に職員研修会の方をされていると思うのですが、その中でこの意見をどう反映するのが大切になってくるところはと思いますのでよろしく願いします。

委員： 全体的に満足度が、2割、3割あたりが多いと思いますが、アンケート結果としてこれが市として高い満足度であると捉えられているのか、低いと思われるのか。おそらく普通が一番多いとは思いますが。

前回より何ポイント増えているというのがありますが、全国平均があるのかどうか分かりませんが、全体としてこの満足度というのが高い値なのかどうか、ものさしがないのでよく分かりません。前回よりは増えはしているけれど、平均的なところと比べるとどうなのかなと思います。

会長： それについてはすぐに答えられないと思うので、事務局は答え方を考えておいてください。

委員： グラフのパーセンテージだけではなかなか見れないんですけど、しっかりコメント欄を見て内容も精査していかなければならないと思います。

委員： ダウンしたという観光に関係ある観光協会から来ました。観光についてのコメント欄をずっと読ませて頂いたときに、やはり自分たちもそうなんですけども、市民の方々も観光が起爆剤になるんだろうなという期待もあるけれども、実際は何をしたら一番いいのか分からないというあたりも、私たちも同感で模索しています。

会長： はい、ありがとうございます。一旦この右の列終わりましたけれども、先ほどの満足度についての全国的に見たらどうなんだろうというのは何か見解ありますか。比較してなかったらなければいいです。いかがですか。

総合政策課長： その前にちょっと10代の満足度が高いというところですが、今回のアンケートでは先ほども申しましたが、実際の回収率というのが10代の場合は68件、一番多いのは70歳以上のところで366件と母数がかなり違います。

ある意味10代の良いという評価に、どうしても引っぱられてしまうところもあり影響が大きいと思われます。そこはさらに分析する必要があると思っております。地域別でもそうなんですけど、青垣地域と氷上地域では、回収率が約3倍違います。このような点からも委員の皆さまからご意見を頂ければと思っております。特に生活排水については、青垣地域の場合はすべて合併浄化槽であり、下水道がないことから、生活排水に対する評価も若干が違うのではと思います。

それから、全体としての満足度が高いか低いかということですが、もともとの基準値というものを持っておりません。前回のところが高いところから下がったのか、あるいは低いところから上がったのかというところの数値を持ち合わせておりません。このあたりについては今後研究をさせて頂きたいと思っております。

副市長： 10代が全体的に高いということですが、先ほど母数が少ないということは回収

率が他の年代に比べて悪いということでした。あくまで想像ですけど、回答を頂ける方というのは、わりと市政に関心が高く色々なことに理解されている方ではないかと思われます。そういう方というのは、自動的に色々なことを理解されているので、肯定的に見ていて満足度が高くなっている可能性があるのではないかと思われます。一方、もともと関心が低い人というのは、要するに不満に思っている人は回答そのものをしないということもあるのではないかと思われます。これは想像ですので、これから検証しないなといけないと思います。

それから、満足度・不満足度でこれをどう見るのかというときに、例えば、先ほど生活排水と観光については満足度がマイナスとなっています。前回調査では、生活排水は満足度が38.5%、それが今回35.4%であれば、実はこの満足度って他のところに比べて非常に高い値と思われます。高いけれども若干下がった。または若干下がったが、その3.1ポイント下がっているというのを、誤差の範囲と見るのか、実際に満足度が下がったと見るのか、その見方については、どうみるのか研究が必要であろうと思います。

例えば、この38.5%が10%台とか20%台になっていけば、それは大きく満足度が下がったということになりますけれども、38.5%という高いものが35.4%という高い位置での移動ですから、これをそのまま下がったと受けたらいいのかどうかというのは、よく考える必要があるかなと思います。

観光については、前回は23.0%、今回は19.2%と3.8ポイントと下がっています。そもそも満足度の高い生活排水が下がったものとは違います。低いところから下がっているので、同じ下がっているポイントでも、若干意味するところが違うだろうと思います。何ポイント下がったかということも重要ですけども、もともと高いところからどう動いているのか、低いところからどう動いているのか、を見極めていくことが大切であり、またそれを気にする必要があるのかないのかを判断していく必要があります。

委員： コメント欄を興味深く読みました。今後、行政が力を入れて行いたい施策をされたらと思います。どこを重点的に何から攻めるのかを明確にして、市民が参画していければと思います。

委員： 市民として感じたことですが、観光について成果がないと思っている方が多いようです。これは平成25年当時の決定事項が平成30年にまだ達成できていないという結果だと思うのですが、実際にはどのようにしたのかだと思います。

委員： アンケートの設問の仕方によって、回答する内容が変わってくるし、誘導されますので、丹波市が引っ張っていきたいという方向に、回答いただけるような設問ができればいいのにと思いました。

委員： ポイントは2つあります。医療に関して満足が増えて不満が減っている点と、ごみ処理について、満足が増えて不満が減っている点です。この2つを比較すると、

医療はこれから新病院がオープンすることは我々にとってありがたい存在であり、期待度がかかり反映されていると思います。

ごみ処理は、すでにクリーンセンターが稼働し生活に密着している状態での、ポイントなのでこれは評価されると思います。観光は、マイナス 3.8 ポイントとなっていますが、もっと市民が期待していたのに、あまり伸びていない。観光に力を入れてもっと良くなると思っていたけど良くなっていないのではと思います。

私は立場上、防災関係ですが、13.5 ポイントと伸びているのは非常にありがたいです。一方、最近丹波市は安全だと思っていたけれども、近年、災害が増えているのでさらに対策を考えてないといけないと思っています。

委員： 2つのことをお願いします。1つは、私は障がい者の代表ですが、平成 25 年に障がい等級の見直しがあったことも加味して、今後の施策を考えていただきたいと思っています。

もう1つは、福知山線の複線化について、様々な運動がなされていますが、複線化するには約 500 億円必要ではという話が一部ではあります。実際のところ JR の支出は全体の一部であり、そのほとんどを周辺自治体が地元負担している模様です。今後、地元負担額がかかりあることも明記すればと思います。

委員： 私は福祉の立場でここへ来ています。福祉に視点を置いて、【資料 3】の番号 3・4・5 の中で、特に番号 3 の地域福祉については、NO. 33 の協働と大きく関係しています。この協働の設問の中に、自治協議会はあるけれど自治会がありません。自治会は地域福祉の向上に関して大切な位置づけであると思っています。

地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉とも、地域福祉の向上があってはじめて成果が出てくるという社会環境にあります。後期基本計画には、地域と福祉を意識した計画策定ができればと思います。

委員： 回収結果に注目したいと思います。総合計画は 52.1%、まちづくりビジョンの市民意向調査の回収結果は約 37.8%です。やはり、この違いは住民の方の意識の違いではないかと思っています。これを受けて後期計画に反映していくわけですが、この 5 年で住民の意識は変わってきています。

行政主体で行う時代から住民には何ができるか、何をやらなければならないかという、意識の醸成が徐々に高まっていると思います。行政がなんでもやりますよという計画でなく、もう少し市民の責務を盛り込み計画策定をすべきだと思います。

会長： 最後に長井委員が言われたことが、大変重要なことで今後の方向を指していると思われます。実は、前期基本計画も役割分担を明確化しています。市民・事業者、地域、行政と 3 区分になっています。

この計画は、行政のための計画ではなく 3 者全体のための計画です。そこには、丹波市役所のする仕事、地域が頑張る仕事、市民や個人事業者が行う義務などが書

いてあります。いわゆる団体自治と住民自治を明確に記載していますので、先ほど言われました地域福祉の中で地域の担うべき課題などが鮮明にわかります。

福祉だけでなく、防災・防犯もしかり、教育も地域教育があります。行政は社会教育としてサポートしています。社会教育自体も、地域でやるべき社会教育と行政が制度的に保障する社会教育の2通りあります。より鮮明になるよう計画に反映していきたいと思います。

長井委員の意見は非常に貴重な意見でした。

会 長： それでは次の議題に移ります。【資料5】の施策改訂シートをご覧ください。後期基本計画のために、修正する作業を行政側で行っています。

かなり多くの資料のため、全体を説明する時間はありませんので、読み取り方を説明して下さい。

(3) 第2次丹波市総合計画（後期基本計画）策定にかかる施策改訂シートの内容について

「事務局」（3）について説明

会 長： いままでの多くの自治体で、現状と課題をきっちり把握していないところがあります。そういうところは、全面書き直しの指示を行ってきました。丹波市においては、当事者感が見えてくるなど、かなりリアルな内容になってきています。

また、「他部署と連携して解決すべき課題」の項目は、他の自治体ではあまり見かまませんが、今回、私が特にこの項目を依頼しました。複合して政策を連携していかなければならない時代です。土木は土木部門だけで行ってきた高度経済成長の時代から変化し、連携が大切になっています。また、前期基本計画でできなかった施策を見直してください、とお願いしていたところ「前期基本計画から見直した視点」の項目が追加されています。現状と課題に対して、反省と方向性が大切です。

次に、「めざすまちの姿」は、住民の方にわかりやすい表現方法にします。役割分担」は、先程言いましたとおり、この計画は行政だけの計画ではありません。住民自治の観点も入っており、自治会も自治協議会も入っていることで、2層構えとなっています。自治会だけではできないこと、自治協議会だけでもできないことがあります。このシートの中身については、まだまだ完成品ではないということを聞いています。

市の内部では作業を着々と進めているということで、この資料は、今回参考提示ということになります。ご理解いただけますか。

委 員： この施策改訂シートは、今回のアンケート結果を踏まえて作成されたのか教えてください。

事務局： この施策改訂シートを作成する時には、単純集計のみを提示して改訂シートを作成しています。詳細なアンケート内容は今回が初めてです。この後、このアンケート結果に基づき、見直しを行うこととなります。

4～5月にかけて内容をブラッシュアップし計画を作り上げていきます。

委員： 「4-2 低炭素社会」についてですが、コメントに太陽光発電についてもっと規制すべきであるとの批判が多くあります。一方、改訂シートのP41「4-2 低炭素社会」ですが、今後も太陽光発電を推進しますと書いてあります。

アンケートのコメント結果とは、かなりかけ離れていると思います。アンケート結果とリンクする施策改訂シートのほうがよいと思います。

副市長： それに関して、コメントさせていただきます。これは内部的な調整が十分できていないと思います。このP41の改訂シートを作成しているのは環境部局です。環境部局というのは、太陽光発電や自然エネルギーをどんどん進めていく部署ですので、できるだけ太陽光発電を広めて増やしていこうとする部局です。

一方で、太陽光発電を規制するのは、景観面となります。丹波市の緑豊かな自然が山の斜面や田んぼに太陽光パネルがどんどん広がっていくことでなくなっていくことは、どうみても丹波市の原風景と似合わない。もっと規制すべきではないか。この開発規制は、建設部局が開発指導要綱に基づいて規制しています。

ということで部局が違うこととなります。いわゆるよく言われる縦割り行政です。本当は環境部局だけ書くのではなく、建設部局も一緒になって書いていけば単に、太陽光を進める部局だけのシートにならないのだと思います。

その辺が十分に内部調整できていないシートになっています。今後、ブラッシュアップしていく中で、ご意見を反映させていかないといけないと思います。

会長： 副市長が言われたとおりですが、今後、「他部署と連携して解決すべき課題」の項目に記載がないといけない思われます。という意味では、差し戻して書き直す必要があります。今日の議題は、市民アンケート結果の報告と施策改訂シートの報告、及びそれについての質疑であったと思います。

委員の皆様には、この2つの材料をよく吟味していただきたいと思います。

また、事務局には、本日のご意見を適宜、反映させていただきたいと思います。

会長： 次の開催日の予定を、事務局からお願いします。

総合政策課長： 本日はありがとうございました。本来でしたら、アンケートの結果をもう少し早く、お手元にお届けする予定でしたが、今回は52.1%という高い回収率でしたので、集計に時間を要し配布が遅れましたことについて、お詫び申し上げます。

このアンケートを基本に、今後、施策改訂シートを作成していきます。お気づきの点がありましたら、ご連絡いただきましたらと思います。

今回の委員会でありましたとおり、複合的、横断的な課題、部局で取り組むべき課題が多くありました。コメントにも沢山書いてありましたので、各担当に戻しま

して、修正等をさせていただきます。これらを踏まえまして、本日のご意見の整理とアンケート内容の分析をさらに行い施策改訂シートを修正することから、若干お時間いただきまして、次回は7月上旬に行いたいと思います。

日程については早いうちにご連絡させていただきます。その次は、8月と続きますが、9月には議会に報告ができるような形で素案をまとめていきたいと思えます。今後、こちらで急ピッチで中身を詰めさせていただき、早うちに次の資料をお届けしたいと思えますのでよろしくお願い致します。

会 長： 時間となりましたので、最後に副会長からご挨拶いただきます。

副会長： 本日は第2回目の審議会ということで、慎重にご議論いただきましてありがとうございました。

次回までに十分目を通していただいて、ご意見をいただきたいと思えます。では、これで終了させていただきます。

ありがとうございました。